

平成20年度 新発田市遺跡出土品展

平成21年2月17日 [火] ~ 2月22日 [日] / 新発田市立図書館 坪川記念室

主催:新発田市教育委員会

ごあいさつ

新発田市は、日本海の海岸線から飯豊連峰の山頂まで、高低差のある様々な地形がみられます。この広い範囲から多くの遺跡が発見されており、その数は680ヶ所にもものぼります。

昭和42年以来実施している、開発事業に先立つ本格的な発掘調査は60ヶ所以上(旧市町村分を含む)におよび、旧石器時代から江戸時代に至るさまざまな調査成果から、私たちの足元に埋もれていた新発田の歴史が徐々に明らかとなってきています。

このたび、新発田市教育委員会では、発掘調査の成果を広く市民のみなさまに公開するために、平成20年度に市内で発掘調査を行った新発田城跡・山王遺跡の出土品を中心とした展示会を企画いたしました。限られた内容ではありますが、どうぞごゆっくりとご覧いただき、先人の足跡と悠久の歴史に思いをはせていただければ幸いです。

■ 平成20年度の遺跡発掘調査

【本発掘調査】

新発田城跡

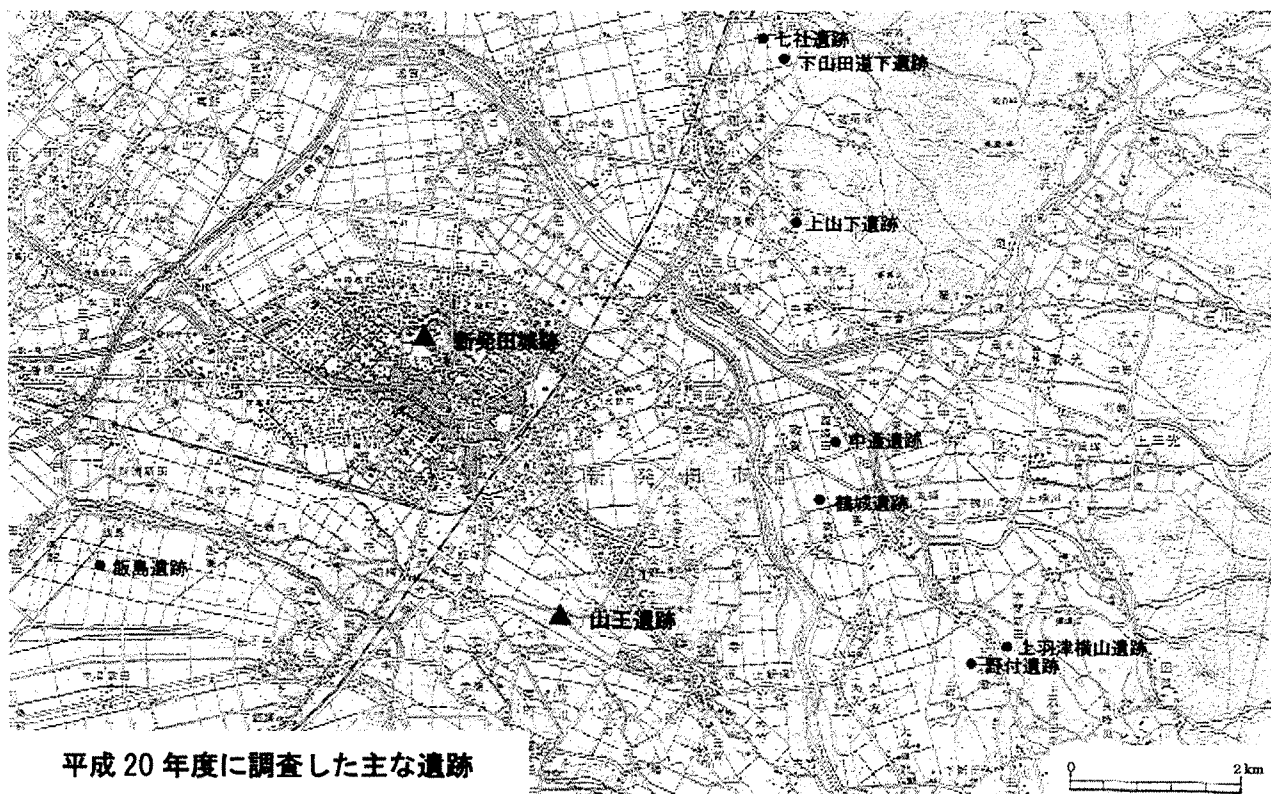
(第21地点・第22地点)

山王遺跡

(第7次調査)

【試掘・確認調査】

下山田道下遺跡(下山田)、七社遺跡(住田)、
上山下遺跡(新保小路)、中通遺跡(西姫田)、
鶴城遺跡(下高関)、野付遺跡(上羽津)、
飯島遺跡(西飯島)、新発田城跡(菅林署敷地)ほか



平成20年度に調査した主な遺跡

■ 新発田城跡

所在地：新発田市大手町6丁目 ほか

調査原因：陸上自衛隊新発田駐屯地 施設建設

調査面積：第20地点 72㎡（平19）、144㎡（平20）

第22地点 213.8㎡

調査期間：第20地点 平成19年8月20日～9月26日

平成20年5月20日～6月2日

第22地点 平成20年6月5日～7月31日

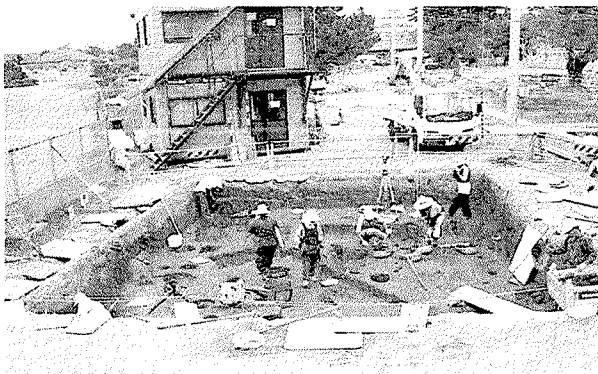
○遺跡の概要

新発田市のシンボルといえる新発田城跡は、市街地の中心部に位置します。今から約400年前に、初代新発田藩主の溝口秀勝侯によって築城が開始され、三代宣直侯のときに完成した梯郭式と呼ばれる細長い城郭です。また、それ以前の戦国時代には、阿賀野川以北の有力武将だった新発田氏の館が二ノ丸の北側部分に築かれたといわれています。

現在は旧本丸と二ノ丸の北半分が、陸上自衛隊新発田駐屯地として使用されています。平成18年に駐屯地内の整備の一環として、施設を2つ、新たに建設する計画が決定しました。そこで工事に先立ち、平成19年度に1ヶ所、平成20年度に前年度の残りともう1ヶ所の建設予定地について新発田市教育委員会が発掘調査を行いました。

○発掘調査の概要

《第20地点》江戸時代の絵図面と照らし合わせると、藩の公的施設である「御作事所」の一部に該当します。平成19年度の調査では、溝や土坑、柱穴が多数見つかりました。特に柱穴からは柱を立てる際の礎石や根固め石のほか、柱材そのものも出土しました。平成20年度の調査区は、近・現代の開発により遺構はかなり壊されていましたが、土坑や柱穴などがみつ



新発田城跡 第20地点の調査風景



新発田城跡 第22地点の調査風景

かりました。出土した遺物は、主に江戸時代の終わり頃の陶磁器類でした。

《第22地点》旧二ノ丸の北側部分にあたり、新発田氏の館があったといわれる“古丸”の一部にも該当します。調査の結果、礎石をもつ掘立柱建物跡や深さ1m以上もある堅穴状遺構、溝や土坑のほか、3本の堀がみつかりました。遺物は、江戸時代の終わりから明治時代の初め頃までの陶磁器類が中心ですが、室町時代の陶器類も出土しています。

○まとめ

第20地点では、礎石や根固め石を持つ柱穴跡が数多く見つかったことから、掘立柱建物があったことがわかりました。「御作事所」に関する施設と考えられます。

第22地点では、みつかった3本の堀のうち、1本は二ノ丸の堀の一部と考えられます。しかし、絵図面と照らし合わせると位置が南側に大きくずれていました。残りの2本はそれよりも古い時代のもと考えられ、出土遺物などから、室町時代にまで年代がさかのぼる可能性があります。新発田氏の館跡との関係も含めて、今後さらに詳しく検討していく予定です。

■ 山王遺跡

所在地：新発田市五十公野字矢崎 486 番地 ほか

調査原因：市道山王畑中線改良事業

調査面積：600 m²

調査期間：平成 20 年 7 月 1 日～8 月 26 日

○遺跡の概要

山王遺跡は、昔の加治川が五十公野丘陵の南側を流れていたときに、押し流されてきた土砂がたまってできたやや小高い所にあります。現在では周りを水田に囲まれ、遺跡の上には畑や果樹園が広がっています。市教育委員会では、平成4年から進められている市道の工事にともなって発掘調査をし、今回の調査で7回目となりました。



遠くから見た山王遺跡（南東から）

これまでの調査で、山王遺跡は平安時代や室町時代の人々が暮らしていた集落の跡であることがわかっています。地面に穴を掘り、その穴に柱を立てて建てた掘立柱建物や、竪穴建物、井戸、溝、墓などの遺構がみつかっています。遺物では、平安時代の土師器や須恵器の椀・甕・壺などが、室町時代では土師器の皿や石川県の能登半島で焼かれていた珠洲焼のすり鉢や甕、中国産の青磁の碗のほか、古銭や鉄鍋といった金属製品なども出土しています。

○発掘調査の概要

今回の調査で、遺構は溝9条、井戸1基、土坑8基、小穴12基がみつかりました。

調査区の西側でみつかった溝は幅約 3.4mと大きな溝で、さらにその底には幅約 80 cmの細い溝が掘られ

ていました。上の溝からは平安時代から室町時代の土器や陶磁器、下の溝からは平安時代の土器が、いずれも摩滅した破片の状態出土しています。どちらの溝も、粗い砂と細かい砂が薄く交互に堆積して埋まっていることから、これらの溝には当時、水が流れていたことがわかりました。集落に水を引き込むために掘られた用水路と考えています。

東側の調査区でみつかった素掘りの井戸の跡からは、平安時代の土師器の椀がまとまって出土しました。その中には、椀の底の外側に墨で文字が書かれたものもあります。井戸の南側半分は壊されていたので、全体の様子を知ることはできませんでしたが、中の土の埋まり方から、井戸は意図的に埋めたもので、その途中で土器をまとめて埋めていることがわかりました。当時の人々が、井戸を埋める時に祭祀(まじない)を行っていたとも考えられます。

○まとめ

今回の調査の主な成果は、溝と井戸の発見です。中でも井戸からまとまって出土した土器は、この地域の土器を考えるうえで、基準となる資料といえます。

今後は残る工事範囲の調査と、これまでの調査で得られた成果とあわせて整理・検討をして、みなさまに新たな知見をご紹介していきたいと思います。



井戸の遺物出土の状態

試掘調査・確認調査

遺跡の発掘調査には、工事範囲全体を発掘する本発掘調査と、遺跡かどうかを知るための試掘調査、遺跡の広がりや内容を把握する確認調査があります。

この試掘調査・確認調査は、遺跡(または遺跡の可能性のある場所)の一部に小規模な四角い穴をあけて、土の中の様子を探るものです。

平成 20 年度は、試掘調査を3ヶ所と、確認調査を11遺跡で実施しました。ここでは、これらのうちのいくつかについて簡単にご紹介します。

○^{しもやまだみちした}下山田道下遺跡・^{ななやしろ}七社遺跡(下山田・住田)

加治川地区ほ場整備事業に関連し、試掘調査・確認調査を平成20年10月～11月に実施しました。調査した面積は合計で約500㎡です。

下山田道下遺跡は、^{しがたさんみかく}櫛形山脈南西部の^{みょうがだに}茗荷谷集落から流れる^{ひさじかわ}緋雉川によってつくられた微高地に、また、七社遺跡は大天城公園から西に延びる微高地にそれぞれ営まれていました。現在の地形は、その後の区画整理などで平坦になったものと思われます。

調査の結果、下山田道下遺跡・七社遺跡ともに、古墳時代のはじめと平安時代に営まれた遺跡だということがわかりました。

遺構は、土坑・溝・柱穴などが見つっています。また、遺物では、それぞれの時代の土器類がたくさん出土しました。平安時代の土器の中には「貴(?)」などと墨で文字の書かれたものもみつっています。



溝の遺物出土状態(下山田道下遺跡)

また、七社遺跡の一部では、19年度に工事の立会調査を実施し、古墳時代・平安時代の遺物が多量に出土しています。この中には木簡という、板に文字の書かれたものがみつっています。この板には九九算が書かれていました。九九の記された木簡は、県内でもほかに2遺跡しか見つかっておらず、極めて貴重な発見だといえます。



九九の書かれた木簡
(七社遺跡)

○飯島遺跡(西飯島)

佐々木2期地区ほ場整備事業に関連し、確認調査を平成20年10月に実施しました。調査した面積は合計で約245㎡です。

遺跡は、太田川(旧加治川?)によってつくられた扇状地の扇端部にあたります。

遺構は土坑や溝が、出土品では、奈良時代・平安時代の土器や木の道具がみつかりました。

遺跡の周辺では、同じ時代の遺跡がたくさんみつかり、このころにはまとまったムラが営まれるようになっていたものと思われます。

平成 20 年度 新発田市遺跡出土品展 展示解説

発行日：平成 21 年 2 月 17 日

編集・発行：新発田市教育委員会

〒959-2323

新潟県新発田市乙次 281 番地 2

電話 0254-22-9534